

授業科目名	健康保育A(保育現場での子どもの病気)	
単位数	2	
授業形態		
講義コード	5805	
授業担当者氏名	高見澤勝(タカミザワ マサル) 宮島祐(ミヤジマ タスク)	
授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	(1)自ら訴えることの少ない子どもの異変に早く気づいてあげられるよう病気の知識を身につける。(DP1) (2)気づいた症状から、病態、疾患を推定できる。(DP1, DP4) (3)各病態に応じた適切な対応ができる。(DP9)	
授業概要	講義ごとに家庭や保育所などでよくみられる子どもの症状を設定し、どのような疾患、病態を推定するか、どう対応するかグループワークを行い発表を行う。質疑応答後に講義を行い確認テストをしてさらに解説する。	
教育課程内の位置づけ	子ども支援学科 専門教育科目 支援科目 4年 選択	
授業におけるアクティブな特徴	特徴	該当
	A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B:課題解決型(PBL)連携なし	-
	C:討議(ディスカッション、ディベート等)	○
	D:グループワーク	○
	E:プレゼンテーション	○
	F:実習、フィールドワーク	-
	G:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	○
	H:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)	-
	I:反転授業	-
J:外国語のみで行われる授業	-	
授業計画	第1回	オリエンテーション 医療知識に関する確認テストと解説
	第2回	なんとなく元気がない。食欲がない。
	第3回	咳がある。ゼーゼーしている。鼻汁、鼻閉がある。いびきが強い。
	第4回	嘔吐がある。下痢・腹痛がある。
	第5回	皮膚に発疹がある。
	第6回	食事中、食後に紅斑がある。痒がっている。
	第7回	救急対応が必要な状況。 総まとめ
授業外学修予習(事前学修)	各授業 [平均30分]	小児の感染症と免疫学及び健康保育総論の復習。 子どもの保健Iの復習。
授業外学修復習(事後学修)	各授業 [平均 15分]	確認テスト、講義資料の復習
評価方法	講義ごとの課題レポート40%、試験60%	
教科書等	参考書:テキスト 子どもの病気(監修:早川浩、小林昭夫)日本小児医事出版社 子どもの病気 理解と接しかた(編者:岩田 力、近喰ふじ子)医学出版社	
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題の解答、解説	
その他	適宜、視聴覚教材を用いる。	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
授業担当者の実務経験の内容	大学病院、一般病院、小児専門病院での医師としての勤務経験に基づいて、保育現場で遭遇する頻度の高い疾患について具体的にどう対応すべきかを解説してゆく。	
ファイル		